

平成22年度（2010年度）

[平成22年11月1日～平成23年3月31日]

事業報告

公益財団法人 マツダ財団

目 次

平成22年度(2010年度) (2010年11月1日～2011年3月31日)	
事業報告(総括)	1
I. 科学技術振興に関する活動の概要	2
I-1. 研究助成	2
1. 募集・応募・選出状況	2
2. 助成件数の推移	2
I-2. 科学わくわくプロジェクト	3
1. 内容・対象・実施状況	3
2. 実施事業	3
I-3. 事業助成	4
1. 募集・応募・選出状況	4
2. 助成件数の推移	4
II. 青少年健全育成に関する活動の概要	5
II-1. 研究助成	5
1. 募集・応募・選出状況	5
2. 助成件数の推移	5
II-2. 市民活動支援	6
1. 募集・応募・選出状況	6
2. 支援件数の推移	6
3. 第27回(2011年度)マツダ市民活動支援一覧	7
II-3. 感動塾・みちくさ	8
1. 内容・対象・実施状況	8
2. 実施事業	8
II-4. 第29回講演会	9
II-5. 大学寄付講義の実施概要	10
1. 内容・対象・実施状況	10
2. 実施事業	10
III. 管理事項の概要	11
III-1. 役員等に関する事項	11
1. 平成23年3月31日現在の役員・評議員の名簿	11
2. 役員等の異動状況	11
III-2. 職員に関する事項	12
III-3. 理事会・評議員会等、主な活動事項	12
III-4. 旧主務官庁届出に関する事項	13
III-5. 所管行政庁認定及び届出に関する事項	13
III-6. 登記に関する事項	13

政府によって進められている公益法人制度改革のもと、当財団は、内閣府より公益法人への移行の認定を受けました。当財団は、平成22年11月1日付けで公益財団法人マツダ財団への移行の登記を行い、公益財団法人として新たなスタートを切ることとなりました。

この移行に伴い、平成22年度は、11月1日を境に二つの事業年度に分かれることとなりました。すなわち、平成22年4月1日から10月31日までが、旧法人としての事業年度、平成22年11月1日から平成23年3月31日までが、移行後の新公益法人としての事業年度となります。旧法人としての平成22年度事業報告と決算は、平成22年12月24日の第2回理事会並びに平成23年1月24日の第1回評議員会で承認されました。今回は、新公益法人へ移行後の平成22年度事業報告と決算についてご報告するものです。

当財団は、新公益法人への移行後も、設立目的である「科学技術の振興」、「青少年の健全育成」に邁進すべく、次の活動を行いました。この活動のためマツダ株式会社から寄付を受け、低金利による運用収益を補うとともに、限られた資金を最大限に活用するように創意工夫をしました。

まず、科学技術振興分野では、先進性・独創性のある研究に対する助成を行っておりますが、11月以降は、申請代表者を訪問し贈呈書をお贈りするとともに、助成金の支払い、また選考委員会による次年度の募集選考手続き及び募集要項等の承認決定などを行いました。また、青少年の科学離れへの対応として、小中高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し「科学するところ」を養うことを目指した事業「科学わくわくプロジェクト」では、サイエンスレクチャー等複数の事業を、広島大学と連携して実施しました。

次に、青少年健全育成分野では、市民活動との連携強化を図り、市民活動の活性化に寄与する実践的な研究に絞って助成を行っておりますが、11月以降は、科学技術振興分野と同様に、申請代表者への贈呈書の贈呈、助成金の支払い、選考委員会による次年度の募集選考手続き及び募集要項等の承認決定などを行いました。また、市民活動支援は、広島・山口両県における青少年健全育成のための地域に密着した活動について、次年度の助成を決定しました。更に、小学生に感動を与えるプロジェクト「感動塾・みちくさ」は、(財)広島市ひと・まちネットワーク等と共同で開催しておりますが、平成22年度の事業報告書を編集、発行し、関係先へ送付しました。講演会では、養老 孟司氏を講師としてお招きし、「生きる力」と題してお話をいただきました。約1,350名の聴講者があり、好評を得ました。大学講義では、単位互換「ボランティア活動」を行っておりますが、次年度の寄付講義の計画立案等を行いました。

なお、管理運営面では、公益財団法人への移行に伴い、理事会、評議員会の実施、公告・開示及び情報公開等を、法令に基づいて進めるとともに、ホームページを通じた広報活動にも積極的に取り組みました。

事業の概要を以下に記します。

I. 科学技術振興に関する活動の概要

I-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

当事業は、第26回(2010年度)の募集において、現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、①機械、②電子・情報、③材料の3分野に係わる先進的・独創的な研究について、2010年4月20日から6月10日の期間で募集し、356件の応募を得ました。科学技術振興関係選考委員会(7月23日、24日開催)において慎重に審査された結果、助成候補として26件が選出され、9月27日開催の第82回評議員会および第97回理事会において、全26件、総額3,000万円が承認決定されました。

当年度は、2010年10月から11月にかけて申請代表者を訪問し贈呈書をお贈りするとともに、11月末には助成対象者への助成金の支払いを行いました。また、2011年3月30日に科学技術振興関係選考委員会が開催され、第27回(2011年度)に関する募集選考手続きおよび募集要項等が承認決定されました。

以上のとおり当事業は、計画通り滞りなく完了しました。

2. 助成件数の推移

応募および助成件数の推移ならびにその内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	第26回 2010年度	第25回 2009年度	第24回 2008年度
応募件数 (件)	356	325	321
助成件数 (件)	26	26	28
助成比率 (%)	7.3	8.0	8.7
助成金総額 (万円)	3,000	3,000	3,500

(地域別状況)

地域	2010年度		2009年度		2008年度	
	応募	助成	応募	助成	応募	助成
中部以東 (件)	180	11	168	14	144	13
近畿 (件)	96	6	77	6	81	6
中国・四国 (件)	55	7	50	4	65	6
九州・沖縄 (件)	25	2	30	2	31	3
合計 (件)	356	26	325	26	321	28

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

(分野別状況)

分野	2010年度		2009年度		2008年度	
	応募	助成	応募	助成	応募	助成
機械 (件)	75	6 (2)	72	6 (2)	64	7 (5)
電子・情報 (件)	73	6 (3)	69	6 (4)	79	7 (4)
化学系材料 (件)	105	7 (6)	92	7 (5)	92	7 (6)
物理系材料 (件)	103	7 (5)	92	7 (6)	86	7 (4)
合計 (件)	356	26 (16)	325	26 (17)	321	28 (19)

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数、分類は審査時) ()内の数値は循環・省資源に寄与する研究で、内数

I-2. 科学わくわくプロジェクト

1. 内容・対象・実施状況

「科学わくわくプロジェクト」は、マツダ財団と広島大学が連携して青少年の健全育成と科学技術の振興を目指して実施する事業です。次の時代を担う小学生・中学生・高校生に、考えること、学ぶことにわくわくする体験、正解のない問題に取組みブラックボックスをこじ開けてみる体験といった機会を継続的に提供することにより、科学する心を育てることを目的としています。広島大学科学わくわくプロジェクト研究センターとの共同で、2010年5月から順次各事業を実施しました。事業費は450万円です。

当年度は、2010年11月に、科学塾研究室の修了報告を「広島大学理学部・大学院理学研究科主催 中学生・高校生科学シンポジウム」にて実施、12月にはサイエンスレクチャー（尾道会場）、ジュニア科学塾第4回「放射線の性質」、2011年2月にはジュニア科学塾第5回「お楽しみ講座」をそれぞれ実施しました。小学校理科ひろばも5校で開催しました。

以上のとおり当事業は、計画通り滞りなく完了しました。

2. 実施事業

2010年度の実施事業は次のとおりです。

事業名・テーマ	開催日	講師	対象
サイエンスレクチャー			
(広島会場) 「GFPを使った最新生命科学～細胞の活動をのぞいてみよう～」	2010. 8. 1	広島大学大学院理学研究科 坂本 尚昭 准教授	中学生 (101名)
(尾道会場) 「砂から探る海の生態～標本づくりを通して学ぶ生物の多様性～」	2010. 12. 12	広島大学大学院理学研究科 富川 光 講師	中学生 (27名)
ジュニア科学塾			
第1回「身近な化学」	2010. 5. 9	広島大学大学院教育学研究科 古賀 信吉 教授	中学生 (24名)
第2回「広島県の自然」	2010. 8. 7、8. 8	広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授 竹下 俊治 准教授	中学生 (22名)
第3回「電波をつかまえよう」	2010. 10. 24	ジュニア科学塾指導グループ	中学生 (20名)
第4回「放射線の性質」	2010. 12. 23	広島大学大学院教育学研究科 蔦岡 孝則 教授	中学生 (21名)
第5回「お楽しみ講座」	2011. 2. 13	ジュニア科学塾指導グループ	中学生 (17名)
科学塾研究室			
天文講座「複数の散開星団の色等級図と年齢推定」	2010. 6. 12 開講 (各講座随時開催)	塾長 広島大学宇宙科学センター 大杉 節 特任教授	高校生 (2名)
生物化学講座「豆腐の中の化学ータンパク質はなぜ固まるのか？」		塾長 広島大学大学院理学研究科 泉 俊輔 教授	高校生 (1名)
細胞生物講座「細胞内における微小管構造の維持にアクチン繊維は関与しているのか？」		塾長 広島大学大学院理学研究科 細谷 浩史 教授	高校生 (3名)
遺伝学講座「タバコ属植物に残るアグロバクテリウム感染の痕跡」		塾長 広島大学大学院自然科学研究支援開発センター 田中 伸和 教授	高校生 (1名)
海洋生物講座「ギボシムシの発光現象の観察」		塾長 広島大学大学院理学研究科 浦田 慎 助教	高校生 (1名)
成果発表「広島大学理学部・大学院理学研究科主催 中学生・高校生科学シンポジウム」にて	2010. 11. 6		高校生 (8名)
小学校理科ひろば 授業実践講座または模擬授業	2010. 9. 30～ 2011. 2. 18	広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授 他	小学校 (8回)

I-3. 事業助成

1. 募集・応募・選出状況

当事業は、第26回(2010年度)の募集において、学会・研究機関等が中国地方で開催する小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する研究会等で、科学技術振興に有意義と認められるものについて、前期2010年4月1日～4月22日、後期2010年7月1日～7月22日の期間で募集し、前期・後期計19件の応募を得ました。マツダ事業助成－科学技術振興関係－選考委員会(5月17日、8月17日)において慎重に審査された結果、助成候補として13件、総額130万円が選出され、第81回評議員会および第96回理事会(6月18日開催)ならびに、第82回評議員会および第97回理事会(9月27日開催)において報告されました。

当年度は、助成対象者からの事業実施結果報告を受けるとともに、2011年3月30日に科学技術振興関係選考委員会が開催され、第27回(2011年度)に関する募集選考手続きおよび募集要項等が承認決定されました。

以上のとおり当事業は、滞りなく完了しました。

2. 助成件数の推移

応募および助成件数の推移ならびにその内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	第26回 2010年度	第25回 2009年度	第24回 2008年度
応募件数 (件)	19	26	13
助成件数 (件)	13	15	10
助成比率 (%)	68%	58%	77%
助成金総額 (万円)	130	150	100

(地域別状況)

地 域	2010年度		2009年度		2008年度	
	応募	助成	応募	助成	応募	助成
鳥 取 県 (件)	0	0	1	1	1	1
島 根 県 (件)	2	1	4	2	3	3
岡 山 県 (件)	9	6	8	6	3	3
広 島 県 (件)	5	4	8	3	5	2
山 口 県 (件)	3	2	5	3	1	1
合 計 (件)	19	13	26	15	13	10

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

(分野別状況)

分 野	2010年度		2009年度		2008年度	
	応募	助成	応募	助成	応募	助成
(1) 体験事業の開催 (件)	17	11	22	13	11	9
(2) 研究会等の開催 (件)	0	0	2	2	0	0
(3) 成果出版物の発刊 ・教材等の試作 (件)	2	2	1	0	1	1
(4) その他 (件)	0	0	1	0	1	0
合 計 (件)	19	13	26	15	13	10

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

Ⅱ. 青少年健全育成に関する活動の概要

Ⅱ-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

当事業は、第26回(2010年度)の募集において、①青少年をとりまく環境 ②コミュニティづくり ③ボランティア育成 ④科学体験の分野について、2010年4月20日から6月30日の期間で募集し、34件の応募を得ました。選考委員会(8月6日開催)において慎重に審査された結果、助成候補として5件が選出され、9月27日開催の第82回評議員会および第97回理事会において、全5件、総額400万円が承認決定されました。

当年度は、2010年10月から11月にかけて申請代表者を訪問し贈呈書をお贈りするともに、11月末には助成対象者への助成金の支払いを行いました。また、2011年2月21日に選考委員会が開催され、第27回(2011年度)に関する募集選考手続きおよび募集要項等が承認決定されました。

以上のとおり当事業は、計画通り滞りなく完了しました。

2. 助成件数の推移

応募および助成件数の推移ならびにその内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	第26回 2010年度	第25回 2009年度	第24回 2008年度
応募件数 (件)	34	36	39
助成件数 (件)	5	5	7
助成比率 (%)	15	14	18
助成金総額 (万円)	400	400	550

(地域別状況)

地域	2010年度		2009年度		2008年度	
	左	右	左	右	左	右
中部以東 (件)	20	2	21	3	17	2
近畿 (件)	3	0	7	0	11	2
中国・四国 (件)	7	2	5	1	10	2
九州・沖縄 (件)	4	1	3	1	1	1
合計 (件)	34	5	36	5	39	7

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

(分野別状況)

分野	2010年度		2009年度		2008年度	
	左	右	左	右	左	右
青少年をとりまく環境 (件)	20	3	18	2	21	2
コミュニティづくり (件)	4	1	3	1	1	1
ボランティア育成 (件)	1	1	3	0	2	1
科学体験 (件)	4	0	5	1	7	1
前各号に類する分野 (件)	5	0	7	1	8	2
合計 (件)	34	5	36	5	39	7

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数、分類は審査時)

Ⅱ－２．市民活動支援

１．募集・応募・選出状況

当事業は、第26回(2010年度)の募集において、①自然とのふれあい ②ボランティア育成 ③地域連帯 ④エコ ⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり分野について、広島・山口両県で2009年10月14日～2010年1月14日の期間で募集し、92件の応募を得ました。選考委員会(2010年2月26日、27日開催)において慎重に審査された結果、支援候補として31件が選出され、2010年3月24日開催の第80回評議員会および第94回理事会において、全31件、総額800万円が承認決定されました。2010年4月19日には広島県、23日には山口県にて贈呈式・交流会を開催するとともに、2010年5月から9月に計5回にわたり、過年度の支援団体・応募団体を対象とした交流会を開催し、問題解決や相互交流の場を提供しました。

当年度は、第27回(2011年度)の募集において、2010年10月13日～2011年1月14日の期間で募集し、97件の応募を得ました。なお、10月20日には募集要項および申請書の書き方の説明ならびに個別相談を行う説明会を開催しています。選考委員会(2011年2月21日、22日開催)において慎重に審査された結果、支援候補として31件が選出され、2011年3月23日開催の第3回理事会において、全31件、総額800万円が承認決定されました。

以上のとおり当事業は、計画通り滞りなく完了しました。

２．支援件数の推移

応募および支援件数の推移ならびにその内訳は次のとおりです。

(応募件数および支援件数)

	第27回 2011年度	第26回 2010年度	第25回 2009年度
応募件数 (件)	97	92	97
支援件数 (件)	31	31	32
支援比率 (%)	32	34	33
支援金総額 (万円)	800	800	800

(地域別状況)

地域	2011年度		2010年度		2009年度	
広島県 (件)	36	12	31	12	35	13
広島市 (件)	32	12	33	9	36	12
山口県 (件)	29	7	28	10	26	7
合計 (件)	97	31	92	31	97	32

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

(分野別状況)

分野	2011年度		2010年度		2009年度	
自然とのふれあい (件)	19	6	12	4	20	4
ボランティア育成 (件)	10	3	13	6	14	5
地域連帯 (件)	45	13	41	12	39	16
エコ (件)	3	2	7	2	4	2
国際交流・協力 (件)	13	4	14	5	8	1
科学体験・ものづくり (件)	7	3	5	2	12	4
合計 (件)	97	31	92	31	97	32

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

3. 第27回(2011年度) マツダ市民活動支援一覧 -青少年健全育成関係-

活 動 名	団 体 名 (代 表 者)	地 域	金額 (万円)
各種陸上競技大会の開催と青少年の健全育成	府中陸上競技協会 (会長 樽谷 光雄)	広島県 安芸郡	25
こわれたおもちゃの修理をとおして青少年の健全育成と環境保全事業	ひろしまおもちゃ病院 (代表 大島 誠二)	広島県 広島市	12
東区障害児のためのサマースクール	東区障害児のためのサマースクール (代表 川尻 七美)	広島県 広島市	10
子供への居場所提供	食べて語ろう会 (会長 田村 美代子)	広島県 広島市	24
親子で体験! 五感で実感! 大きな発見 ～宮島の自然と環境を楽しもう～	みやじま未来ミーティング (事務局 馬場田 真一)	広島県 広島市	25
カープと市民の物語 紙芝居化プロジェクト	プロジェクトC (世話人代表 真宅 成光)	広島県 広島市	20
エコINNくろせ「わになれ黄金小麦」 環境学習の内容充実と活動範囲拡大	エコINNくろせ (会長 西濱 忠孝)	広島県 東広島市	25
太田川アクティブアーチ ワークショップ体験	太田川アクティブアーチ実行委員会 (代表 林 俊一)	広島県 山県郡	35
手作りの紙人形劇(ペープサート)を通じて地域を元気にする	夢配達人プロジェクト 玖島実行委員会 (会長 清水 透)	広島県 廿日市市	20
「みらい座」朗読劇『福山空襲』10周年記念公演 「ムっちゃんの歌が聞こえる」	特定非営利活動法人みらい福山 (理事長 大元 光代)	広島県 福山市	35
2011年度“直美の部屋”コンサート ～若い音楽家の育成・支援公演を、三原の街から!～	直美の部屋 (会長 三好 フミコ)	広島県 三原市	16
広島県内に於ける小中学生のロボット競技体験活動 (ロボカップジュニアに挑戦しよう!)	ロボカップジュニア広島ブロック保護者会 (代表 山野 真一)	広島県 広島市	47
永慶寺川の多様な自然を守り、育てる活動 (環境美化とほたるを守り育てる活動)	永慶寺川の自然を守る会 (代表 山本 満彦)	広島県 廿日市市	25
子どもシェルターの開設・運営	ピピオ子どもセンター (理事長 鶴野 一郎)	広島県 広島市	50
第4回(財)日本ダウン症協会中国ブロック大会in広島 ～夢みるチカラ2011～	(財)日本ダウン症協会広島支部えんぜるふいっしゅ (会長 廣瀬 祥子)	広島県 広島市	20
高校生による「太田川学」研究	高校生環境ネットワーク広島 (代表 竹本 伸)	広島県 山県郡	35
吉島地域の町職人と留学生が連携した 「小学生のための物づくり体験」	よしじま職人工房 (代表 安田 茂)	広島県 広島市	25
NPO・NGO ユース・インターン・プログラム (YIP)	ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART (代表 中倉 勇)	広島県 広島市	39
世界の遊びを体験してみよう!	カモミール～ラマンカ～ (代表 蘆田 智絵)	広島県 東広島市	10
野生への挑戦 子どもキャンプ	まちづくりジュニアスタッフ“ACT”(アクト) (代表 寺岡 公章)	広島県 大竹市	40
通学合宿	通学合宿実行委員会 (事務局 権代 明典)	広島県 東広島市	25
人と自然とのふれあい	大人のかくれ家倶楽部 (代表 木戸 敏明)	広島県 広島市	15
府中町子ども応援隊 (小学生～幼児達との親子のふれあいを大切に育てる)	府中町子ども応援隊 (府中町ボランティア協議会会長 篠永 廣也)	広島県 安芸郡	15
ONE HOME PROJECT (ワン・ホーム・プロジェクト)	Global Bridge (代表 山崎 唯美)	広島県 広島市	30
世界に屈しないグローバルな子どもの健全育成支援活動	ふれあいの森なんでも工房 (会長 西林 稔)	山口県 周南市	32
しゅうなん子どもドリームスクール	ドリームスクール実行委員会 (実行委員長 中田 智加江)	山口県 周南市	25
おごおりウィークエンドアドベンチャー	おごおりウィークエンドアドベンチャー実行委員会 (委員長 高橋 則彦)	山口県 山口市	25
ものづくり科学教室	日本宇宙少年団 周南分団 (分団長 志水 慶一)	山口県 光市	15
ホテル飼育施設の整備	富海をホテルの里にする会 (会長 平田 豊民)	山口県 防府市	25
地域における青少年のための多文化共生事業 「国際交流地域リーダーの養成と諸活動の展開」	国際交流ひらかわの風の会 (会長 中村 幸士郎)	山口県 山口市	30
障がい者スポーツ教室	障害児(者)サポートクラブ翔 (代表 岡崎 重正)	山口県 周南市	25
合 計	31件		800万円

II-3. 感動塾・みちくさ

1. 内容・対象・実施状況

「感動塾・みちくさ」は、子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育むこと、合わせて科学や技術への興味、関心を高めることを目的とした事業です。(財)広島市 ひと・まち ネットワーク、(株)損害保険ジャパンとの共催で、2010年8月から順次各事業を実施しました。マツダ財団負担分の事業費は100万円です。

当年度は、2010年度の事業に関する実施報告書を編集、発行し、関係先へ送付しました。

以上のとおり当事業は、計画通り滞りなく完了しました。

2. 実施事業

2010年度の実施事業は次のとおりです。

事業名・テーマ	開催日	内容	対象
広島市青少年野外活動センター 「-FLY INTO THE SKY-気球に乗って、空に飛び出そう！」	2010.8.10～ 8.12	実際に熱気球に乗ったり、みんなで描いた地上絵を気球カメラで見たり、ロケットを発射させてその力を確かめたり、暗闇のなか輝く星空をみんなで眺めたりして、それらの驚きや感動を感じてもらうとともに、その不思議さや仕組みを理解し、探求する力を育む。事業を通じて身のまわりの自然や科学について興味や関心をもってもらおう。 いろいろな人と関わりながら探求する力や創意工夫する力をつける。	小学3～ 4年生 (48名)
広島市三滝少年自然の家 「風とエネルギー」	2010.8.23～ 8.25	子どもの好きな工作や実験を通して自身が持っている理科好きを引き出し、創造力や探究心を培う。 自然(風)のエネルギーに目を向けさせ、実験・観察をして科学に対する興味・関心を持たせるとともに、問題解決能力を育てる。 エネルギーを作るとともに、省エネや環境についても考察させる。	小学4～ 6年生 (48名)
広島市似島臨海少年自然の家 「似島の海と空」	2010.10.9～ 10.11	似島の海を舞台に体験的な活動を通して観察を行わせ、問題解決の能力を身につけさせるとともに、理科に対する関心、意欲を育てる。 自然への働きかけや、体験を通して自然に親しませ、身の回りの自然に対する興味を深めさせる。	小学4～ 6年生 (32名)

Ⅱ－４．第２９回講演会

青少年健全育成に関する講演会を、講師に養老孟司氏（東京大学名誉教授）を迎え、「生きる力」と題して開催しました。講演の案内は県・市の教育委員会やPTAへ行い、また新聞紙上を通じて広く聴講希望者を募りました。

当日は1,350人の聴講者を迎え、盛会のうちに終えることができました。

講師からは、「子どもには、やってみなくてはわからないことは、多少危険でもやらせてみる必要があるのでは」といった、子どもたちの日々の「生きる力」や、名著『夜と霧』に触れ、「アウシュビッツ収容所でただ一人生き残った فرانクルは、偶然が何度も重なったように述べているが、実は、最後の最後まで生きようともがいた、生きる意志・生きることへの執着の結果です」と、人として生きることの本質的な意味を問いかける「生きる力」まで、豊富な事例を交えて話されました。

講演後のアンケートでは、「ユーモアを交えた豊富な話題で、非常に楽しく学ばせていただきました」「生き方に迷いが出てきている自分にアドバイスを貰った気がする」といった多くの感想をいただき、聴講された方々には大いに満足していただけたものと察しています。

講演会の概要は、次のとおりです。

- (1) 講 師： 養老 孟司氏（東京大学名誉教授）
- (2) 演 題： 「生きる力」
- (3) 開 催 日： 2010年11月17日(水)
- (4) 開催場所： 広島国際会議場 フェニックスホール
- (5) 聴講者数： 1,350名

II-5. 大学寄付講義の実施概要

1. 内容・対象・実施状況

「社会人、企業人として必要な視点・能力を醸成すべく、「柔らかい社会」「地球の有限性」「人類愛」「国際化・グローバル化」を共通キーワードとして、地域の大学に対する寄付講義を実施しました。マツダ財団は各講座の企画、講師調整、講義準備、講座運営を担い人材、ノウハウ、コンセプト、講義等の提供による助成を行いました。また、マツダ財団のネットワークや人的資源を活かした講師派遣も行いました。

当年度は、2010年度の事業に関する実施報告書を編集、発行し、関係先へ送付しました。また、2011年度の寄付講義の計画立案、講師の選定、依頼等を行いました。

以上のとおり当事業は、計画通り滞りなく完了しました。

2. 実施事業

2010年度の実施事業は次のとおりです。

大学名	講義科目	期間	講師所属機関	特徴	開講年度
県立広島大学	ボランティア活動	2010 5.22, 29 集中講義 夏休み実習	ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART (特活)ひろしまレクリエーション協会 広島国際学院大学 (特活)ANT-Hiroshima ひろしままちづくりファシリテーターズ	広島県内単位互換科目。講義と実地研修とを組合せた形で、ボランティア理解、ボランティア活動に必要なリーダーシップの育成・チームワーク力の醸成、ボランティア活動参加による感動体験を得ることを目的として実施。20名が15箇所の事業所や団体でボランティアとして活動した。	2000年

以上の他、広島大学「コミュニケーション能力開発特別講義(ディベート演習)」、県立広島大学「インターンシップ実習・ビジネスマナー講座」へ講師派遣を行った。

Ⅲ. 管理事項の概要

Ⅲ-1. 役員等に関する事項

1. 平成23年3月31日現在の役員・評議員の名簿

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
理 事 長	代表理事	非常勤	山 内 孝	マツダ株式会社 代表取締役会長兼社長
専務理事	代表理事	非常勤	黒 沢 幸 治	マツダ株式会社 常務執行役員
常務理事	業務執行理事	常 勤	魚 谷 滋 己	公益財団法人マツダ財団 事務局長
理 事		非常勤	上 田 宗 岡	上田宗箇流 家元
理 事		非常勤	片 山 義 弘	広島大学 名誉教授
理 事		非常勤	川 本 一 之	株式会社中国新聞社 代表取締役社長
理 事		非常勤	櫛 本 功	広島大学 名誉教授
理 事		非常勤	山 根 八 洲 男	広島大学 副学長
理 事		非常勤	山 野 正 登	有人宇宙システム株式会社 相談役
監 事		非常勤	友 田 民 義	公認会計士
監 事		非常勤	藤 本 哲 也	マツダ株式会社 財務本部副本部長

(五十音順・敬称略)

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
評 議 員		非常勤	赤 岡 功	県立広島大学長
評 議 員		非常勤	浅 原 利 正	広島大学長
評 議 員		非常勤	安 藤 周 治	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター代表理事
評 議 員		非常勤	宇津木 健太郎	公益財団法人中国電力技術研究財団専務理事
評 議 員		非常勤	大 杉 節	広島大学宇宙科学センター 特任教授
評 議 員		非常勤	佐 藤 次 郎	財団法人日本語教育振興協会 理事長
評 議 員		非常勤	竹 林 守	マツダ株式会社 相談役
評 議 員		非常勤	堀 憲 次	山口大学 工学部長
評 議 員		非常勤	山 木 勝 治	マツダ株式会社 代表取締役副社長執行役員
評 議 員		非常勤	山 中 昭 司	広島大学大学院 工学研究院 特任教授
評 議 員		非常勤	山 西 正 道	広島大学 名誉教授
評 議 員		非常勤	吉 田 総 仁	広島大学大学院 工学研究院長
評 議 員		非常勤	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社 相談役

(五十音順・敬称略)

2. 役員等の異動状況

- ・赤岡 功、浅原 利正、安藤 周治、宇津木 健太郎、大杉 節、佐藤 次郎、竹林 守、堀 憲次、山木 勝治、山中 昭司、山西 正道、吉田 総仁、渡辺 一秀の13氏は、平成22年11月1日、公益財団法人マツダ財団の最初の評議員として就任した。
- ・大田 哲哉氏は、平成22年11月10日理事を退任した。
- ・山根 英幸氏が平成23年1月23日理事を退任し、魚谷 滋己氏が平成23年1月24日理事に選任された。

Ⅲ－２．職員に関する事項

(平成23年4月1日現在)

役職名	名 前	主たる担当職務
事務局 長	魚 谷 滋 己	・事務局統括
事務局 長代理	西 川 俊 秀	・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・財団の普及・啓発に関する事業計画の策定及びその実施に関する事項
事務局 長代理	永 松 貴 文	・事業計画・収支予算の策定及び財務・会計に関する事項 ・理事会、評議員会、選考委員会の運営に関する事項 ・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・大学講義開講に関する事項
総務課 長	世 良 和 美	・理事会、評議員会、選考委員会の運営に関する事項 ・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・大学講義開講に関する事項
事務局	酒 井 知 美	・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・財務・会計に関する事項 ・講演会開催に関する事項

* 山根 英幸（事務局 長）は平成23年1月10日付で退任した。
魚谷 滋己（事務局 長）は平成23年1月10日付で就任した。
河村 英子（事務局員）は平成23年2月15日付で退任した。
酒井 知美（事務局員）は平成23年4月 1日付で就任した。

Ⅲ－３．理事会・評議員会等、主な活動事項

(理事会)

会 議 名	開催年月日	議 事 事 項	会 議 の 結 果
第1回理事会	平成22年11月24日	第1号議案 平成22(2010)年度(11~3月)事業計画及び収支予算承認の件	原案どおり承認可決
		第2号議案 諸規程の制定の件 (1)理事の権限規程 (2)資産運用規程 (3)個人情報保護規程 (4)情報公開規程	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第2回理事会	平成22年12月24日	第1号議案 平成22(2010)年度(4~10月)事業報告及び決算承認の件	原案どおり承認可決
		第2号議案 事務局 長交代の件	原案どおり承認可決
		第3号議案 理事候補推薦の件	原案どおり承認可決
		第4号議案 常務理事及び業務執行理事選定の件	原案どおり承認可決
		第5号議案 選考委員1名選出の件	原案どおり承認可決
		第6号議案 第1回評議員会招集に関する件	原案どおり承認可決
第3回理事会	平成23年3月23日	第1号議案 平成23(2011)年度事業計画及び収支予算承認の件	原案どおり承認可決
		第2号議案 第27回(2011年度)市民活動支援対象(青少年健全育成関係)承認の件	原案どおり承認可決
		第3号議案 選考委員13名選出の件 [報告事項] 職務執行の状況	原案どおり承認可決

(評議員会)

会 議 名	開催年月日	議 事 事 項	会 議 の 結 果
第1回評議員会	平成23年1月24日	第1号議案 平成22(2010)年度(4~10月)決算の承認の件	原案どおり承認可決
		第2号議案 理事選任の件	原案どおり承認可決
		第3号議案 評議員会の議事録署名人に関する件 [報告事項]	原案どおり承認可決
		(1)平成22(2010)年度(4~10月)事業報告の件 (2)平成22(2010)年度(11~3月)事業計画及び予算の件 (3)諸規程の制定の件	

(当年度の主な活動 -上記会議以外)

活動項目	実施年月日	概要
小学校理科ひろば	22.9～23.2	授業実践講座または模擬授業
第26回マツダ研究助成贈呈書の贈呈	22.10～11	助成対象者に対し、贈呈書を贈呈
第26回(2010年度)青少年健全育成市民活動支援候補の募集	22.10～22.1	広島県、広島市及び山口県の青少年健全育成主管部門に推薦依頼
科学わくわくプロジェクト成果発表	22.11.6	広島大学理学部・大学院理学研究科主催 中学生・高校生科学シンポジウムにて
第29回講演会	22.11.17	講師：養老 孟司氏 演題：「生きる力」
科学わくわくプロジェクト 「サイエンスレクチャー(尾道)」開催	22.12.12	広島大学との連携事業 「砂から探る海の生態 ～標本づくりを通して学ぶ生物の多様性～」
科学わくわくプロジェクト「ジュニア科学塾」開催	22.12.23	広島大学との連携事業 第4回「放射線の性質」
科学わくわくプロジェクト「ジュニア科学塾」開催	23.2.13	広島大学との連携事業 第5回「お楽しみ講座」
平成23年度第1回選考委員会(青少年健全育成関係)	23.2.21、2.22	第27回市民活動支援対象の審議・選出

Ⅲ-4. 旧主務官庁届出に関する事項

届出先	届出年月日	届出事項
文部科学大臣(文部科学省研究振興局振興企画課奨励室)	平成22.11.4	移行登記完了の届出
文部科学大臣(文部科学省研究振興局振興企画課奨励室)	平成23.1.31	平成22年度(4～10月)事業報告及び収支決算報告

Ⅲ-5. 所管行政庁届出に関する事項

届出先	届出年月日	申請事項等
内閣総理大臣 (内閣府公益認定等委員会)	平成22.11.4 平成22.11.24 平成23.2.2 平成23.3.31	移行登記完了の届出 理事変更の届出 理事変更の届出 平成23年度事業計画書に係る提出書

Ⅲ-6. 登記に関する事項

登記先	登記年月日	登記事項
広島法務局海田出張所	平成22.11.1	特例財団法人の名称変更による公益財団法人設立の登記 代表理事・監事・評議員の登記 ・平成22年11月1日 下記2氏 代表理事に就任 山内 孝、黒澤 幸治 ・平成22年11月1日 下記2氏 監事に就任 友田 民義、藤本 哲也 ・平成22年11月1日 下記13氏 評議員に就任 赤岡 功、浅原 利正、安藤 周治、宇津木 健太郎、大杉 節、 佐藤 次郎、竹林 守、堀 憲次、山木 勝治、山中 昭司、 山西 正道、吉田 総仁、渡辺 一秀
	平成22.11.19	特例財団法人の名称の変更による解散の登記 理事変更登記 ・平成22年11月10日 大田 哲哉氏 理事を辞任
広島法務局	平成23.1.31	理事変更登記 ・平成23年1月23日 山根 英幸氏 理事を辞任 ・平成23年1月24日 魚谷 滋己氏 理事に就任